

Q&A

主膵管狭窄をきたした膵多房性嚢胞性病変

【問 題】

症例：51歳，男性。

主訴：自覚症状なし。

現病歴：健診の経腹壁超音波検査で膵体部に嚢胞性病変を指摘され，精査目的に当院を紹介受診した。

既往歴：高血圧症，脂質異常症。

家族歴：なし。

身体所見：体重減少なし，腹部は平坦軟で，圧

痛なし。

血液検査所見：T-Bil 0.5mg/dl, AST 19U/L, ALT 15U/L, ALP 83U/L, γ -GTP 64U/L, LDH 191U/L, amylase 69U/L, CRP 0.2mg/dl, HbA1c 5.5%, TP 7.0g/dl, IgG 973mg/dl, IgG4 31.5IU/ml, CEA 1.8ng/ml, CA19-9 1.0U/ml.

画像所見：腹部造影CT (Figure 1), MRCP (Figure 2), 超音波内視鏡検査 (Figure 3) を示す。

診断は何か？

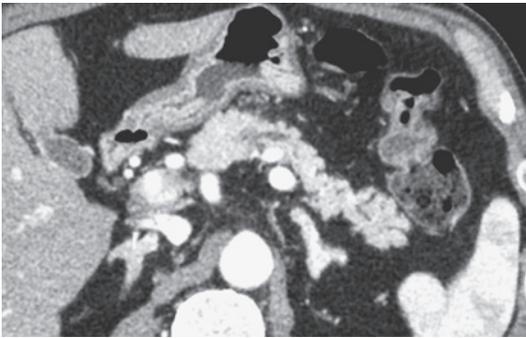


Figure 1. 腹部造影CT (水平断，動脈後期相).

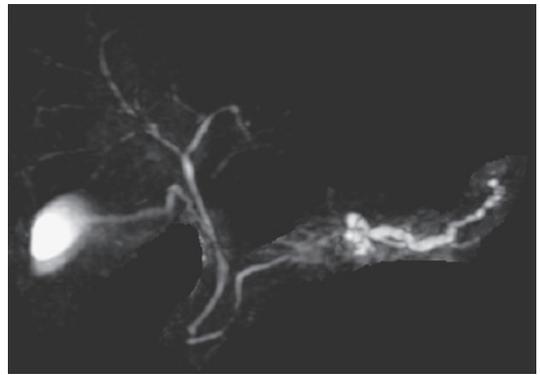


Figure 2. MRCP.

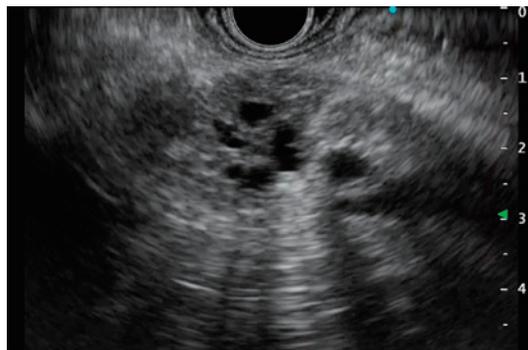


Figure 3. 超音波内視鏡検査.